



なぎさ ひやくせん

こ まいこ かいがん

渚百選！「小舞子海岸」



小舞子海岸<日本の渚百選>〈湊町〉

明治36年に、現在のJR小舞子駅の前身である国鉄夏期停車場が開設され、国鉄から一番近い海水浴場として多くの海水浴客で賑わいました。毎年恒例の海岸美化清掃や地元町内会の清掃奉仕など、市民の協力により美しい環境が保たれています。

明治30年に美川で料理旅館を営んでいた餅田半次郎がこの風向明媚な地を好み、私財をなげうって、風流な丸太組みの小亭「松韻亭」をつくり、浜料理や酒をふるまったことに始まっています。漢学者細野燕台や文豪徳田秋声も訪れたと伝えられています。この美しい海岸が、播州(兵庫県)の「舞子の浜」の景勝を彷彿させることから、餅田半次郎が「小舞子」と名付けました。

平成8年7月10日には「日本の渚百選」に選定されました。平成10年8月21日に「日本の渚全国協議会平成10年度総会」「第1回渚サミット」が開催されました。